

令和5年度 送辞

厳しかった冬の寒さも歳分和らぎ、校門の梅も少しづつ色づき始め、春の訪れを感じられるようになった今日というこの良き日に、三年生の皆様が長野吉田高校をご卒業されますことを、心よりお祝い申し上げます。在校生を代表しまして、お祝いの言葉をお贈りいたします。

先輩方が長野吉田高校に入学されてから、三年が経ちました。長いようで短い高校生活に終わりを告げる今日を、先輩方はどのような思いで迎えているでしょうか。やりきった達成感、別れの寂しさ、新生活への高揚感や不安など、さまざまな思いがおありだろうと思います。

思えば、先輩方が歩まれた高校生活は、新型コロナウイルスに大きな制限を受けながらも、次第に以前の日常が取り戻され、明るい兆しが見えてきた、そんな三年間でした。一年生の七月に行われた暁峰祭では、一般公開は行われませんでした。続く九月には休校の日が続き、授業はオンラインになりました。

クラスマッチは何度も中止になりました。しかし時とともに対策のあり方も変わり、この五月には五類に移行したこともあって、学校生活に
関する制限も緩和されてきました。

そして迎えた今年度の暁峰祭では、ついに制限を設けない形での開催が可能になりました。とはいえ、一度途絶えた伝統の再生にあたっては、ほぼゼロから創り上げるようなご苦労があったことと思います。そんな中、「Glamorize」というテーマのもと、今までよりさらに良いものを作ろうと、

全校で一体となって企画を考え、それを深めようと
とする姿。一般公開を誰もが楽しめるようにと真剣に取り組み、一生懸命にクラス展示を製作する姿。忙しい中でも、毎朝早くから練習し、
クラスのテーマに沿った最高のクラスダンスを作り上げようとする姿。

先輩方のそうした力強い姿は、新型コロナウイルスに制限される中で、つらく厳しい状況に置かれたと

しても、決して屈することなく高校生活を過ごしてきた、努力の結果なのだろうと思います。

また班活動においても、コロナ禍からの立て直しにおいて、先輩方は力強い姿を私たちに示してくださいました。私たちは、先輩方が毎日遅くまで練習をされているのを何度も目にしました。それもただがむしやらに練習するのではなく、自分の強みや弱点を分析し、

どうすればより強くなれるかという主体的な思考のもとに、懸命な努力を重ねていらっしやいました。なかなか結果が出ない時が続いても、折れることなく粘り強く取り組まれる先輩方は、私たちにとって憧れでもあり目標でもありました。

そして生徒会活動を退かれた後は、受験に向けて毎日遅くまで学校に残り、勉学に励んでいらっしやいました。くりかえし先生方を訪ねて個別指導を受けられる積極的な姿勢や、つらい時期にも仲間と語り合い、支えあって乗り越えようとしている様子を目にしました。

そうした姿は、まさにこれから厳しい試練に立ち向わねばならない私たち在校生に、自らの将来を自らの努力によって勝ち取る覚悟や、自分の理想から目を離すことなく継続して努力することの大切さを示すものでした。

わたしたちは、そうした先輩方の姿を規範として、自分たちの試練を乗り越えていこうと思います。

さて、本日、輝かしい高校生活のゴールを迎えられた先輩方は、その喜びの中にも、新しい環境に身を投じることへの不安や、かけがえのない友との別れの寂しさを感じていらつしやることでしょう。そしてこれから始まる新たな生活の中では、時につらく厳しい時を迎えることもあるでしょう。

しかしそんな時こそ、新型コロナを乗り越えて学校の伝統を再生した経験を、また自らの努力によって自らの未来を勝ち取ろうとした努力の日々を、そして切磋琢磨しながらさまざまな試練を乗り越えてきた仲間との絆を思い出してく

ださい。

そうした中で培われた自分の力を信じて、恐れ
ず前につき進んでください。

最後に、卒業生の皆さんのご健康とご活躍、そ
して皆さんの将来が素晴らしいものとなります
よう心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。

令和六年三月一日

長野吉田高等学校 在校生代表 須藤 悠斗